



ほうじょうやすとき

北条泰時は、どんな人だったの



話し合いによる政治を始めたり、「御成敗式目」を定めたりして、武士による政治を確立した人だよ。

北条泰時は1183年に、第2代執権しっけんの北条義時よしときの子として生まれました。承久じょうきゅうの乱らん(1221年)などの戦いかつやくで活躍し、京都で六波羅探題ろくはらたんたいをつとめました。1224年に義時なが亡くなると、鎌倉かまくらに帰って、第3代執権になりました。

話し合いによる政治を始めた

1225年、幕府ばくふの実権じっけんをにぎっていた、お婆まさこの政子せいじが亡くなると、泰時は政治改革かいかくを始め、「連署れんしよ」という執権を助ける役職を置いたり、「評定衆ひょうじょうしゅう」という御家人ごけにんの会議ごけにんを設けたりしました。これらのことは、鎌倉幕府が、実権をにぎった人が勝手に行う政治どくさいせいじ(独裁政治)から、話し合いによる政治ごせいばいしきもく(合議政治)に移ったことを、表しています。1232年には、武士による最初の法律「御成敗式目ごせいばいしきもく(貞永式目ともいう)」を定めて、御家人ごけにんどうしの土地争いを公平さばに裁くための模範もはんをつくったり、貴族側きぞくがわと仲良くやっっていくことを決めました。これによって、武士による政治が確立した、といえるようです。

貴族側の反対をおさえて、次の天皇を決めた

1242年、四条天皇しじょうが亡くなり、だれを後つぎにするかが問題になると、泰時は、貴族たちの反対をおさえて、土御門上皇つちみかどじょうこうの皇子おうじを天皇ごさか(後嵯峨天皇)につけました。これ以後、貴族側と幕府側は、仲が悪くなりました。同年6月、泰時は過労せきりに赤痢あきが重なって、病死しました。人々は、承久の乱の後、隠岐おき(島根県)に流されて亡くなった、後鳥羽上皇おんりょうの怨霊おんりょうに殺されたのだと、うわさし合ったそうです。

ことばの意味 六波羅探題 鎌倉幕府が京都においた、六波羅府という役所の長官。